

タイトル	録音時間	録音場所	録音年月	値段	説明
瞑想ワークショップ	全体（21分42秒）	大阪市	2012年8月	300円	大阪市での瞑想ワークショップの際の講話です。「外なる勇気づけ」と「内なる勇気づけ」を区別し、真心から本当に勇気づけられる人になるためには瞑想が必要だという話をしています。
スピリチュアリティ 2012大阪・三重	前半 瞑想ワークショップ 2012年4月@大阪（45分56秒） 後半 スピリチュアル・ワーク 2012年5月@三重（47分54秒）	大阪/三重	2012年4月5月	1000円	大阪で開催した瞑想ワークショップにおける講話と、椿大神社で開催した合宿スピリチュアル・ワークでの講話と、スピリチュアリティのお話をふたつまとめてお届けします。特定の宗教に限定せず広い意味での精神性を「スピリチュアリティ」と呼んでいますが、今回の2本はどちらも「神道」をテーマにしています。瞑想の三つの段階（シャマタ・サマーディ・ヴィパッサナ）から説き起こし、西洋思想や仏教に関する膨大な知識を駆使して、日本の神々という精神的な象徴を思い起こす必要があると結論づけています。
ASMI 2011	1/5（43分05秒） 2/5（42分25秒） 3/5（15分27秒） 4/5（22分55秒） 5/5（35分54秒）	神戸	2011年12月	1600円	瞑想ワークショップASMIでの講話です。
ASMI@敦賀	全体（42分51秒）	敦賀	2010年12月	500円	敦賀でのASMIで、瞑想についての話をしています。
生きる意味	全体（45分20秒）	滋賀	2009年12月	600円	近江八幡で開催した合宿スピリチュアル・ワークでの講話です。「私が生きている意味は何でしょう」とか「私の生きる意味は何でしょう」とかいう問いからは答えはでない、というお話です。そうではなくて、「全体（自分より大きなもの）は私に何を求めているのでしょうか」とか「全体の中で私の役割はなんなのでしょうか」と問うならば、答えを探し始めることができます。つまり「かのよう」に（仮想論）の発想でもって、個人主義を超え絶対的全体論で考えてみると、よりよく生きる道を探そうとできると思います。
清い心	全体（45分21秒）	和歌山	2009年1月	500円	和歌山県すさみ町でのスピリチュアル・ワークの最後の日の講話です。本居宣長の考え方にもとづいて、「清い心」ということについて話をしています。
スピリチュアル・ワーク@鈴鹿	前半（27分56秒） 後半（32分35秒） 添付資料 zurich.pdf	三重	2008年2月	600円	三重県鈴鹿市でおこなわれたスピリチュアル・ワークでの講話です。1日目は平等の位置と劣等の位置の話からはじめて、言葉による分別（差異）と関連させながら、差別とスピリチュアルな平等の話をしています。2日目はスピリチュアリティと関連して現代の暮らし方の問題点について話をしています。
瞑想とアドラー心理学	前半（42分15秒） 後半（46分45秒）	大阪	2008年12月	900円	ASMIでの講話です。アドラー心理学と瞑想との関係を、1）陰性感情に影響されなくなる、2）課題の分離ができるようになる、3）共同体感覚を育成できる、という3つの側面からお話しています。
スピリチュアリティ 2012岡山	1日目（66分53秒） 2日目（50分06秒） 3日目（49分35秒）	岡山	2008年11月	2000円	岡山の牛窓におけるスピリチュアリティに関する講話です。世に言う「スピリチュアル」と「スピリチュアリティ」とは違います。1日目は「スピリチュアリティとは何か」、2日目は「スピリチュアリティから見たアドラー心理学の基本前提」、3日目は「近代主義とスピリチュアリティ」の話です。特に2日目が興味深いのではないかと思います。
ものとこと	全体（54分13秒）	熊本	2008年9月	600円	熊本スピリチュアル・ワークでの講話です。「空と縁起」という仏教的な概念を「もの」と「こと」という形で語りなおし、そこから「四縁」と「四恩」を通じて、スピリチュアルな生き方を提唱しています。「こと」としての世界の中で、「こと」としての自分の役割を果たすことで、人生の本当の意味と居場所がわかると説いています。
ボディ・マインド・ハート	1日目（26分54秒） 2日目（40分21秒） 3日目（42分24秒） 添付資料 table.jpg	千葉	2008年5月	1000円	千葉県幕張でおこなわれたスピリチュアル・ワークの際の講話です。ボディ・マインド・ハートについて、かなり深い話をしています。付表をつけておきました。
ASMI@国東半島	1日目（49分43秒） 2日目（45分32秒） 3日目（44分54秒）	大分	2007年12月	1300円	国東でのASMIの時の夜の講話です。目標追求性と虚妄分別、平等と平等性智など、アドラー心理学の理論と仏教唯識哲学の理論との関連性を説明し、人間が自然に組み込まれた存在としてもっとも人間らしく生きていけるスピリチュアルな道について説いています。
ダンマパダ	全部（44分36秒）	高知	2007年5月	500円	2007年5月の高知スピリチュアルワークでの講話です。原始仏典『ダンマパダ（法句経）』を材料にして、西洋近代文明がかかえる諸問題を、根本的な時間論・空間論にまで遡ってお話しし、生きた時間と生きた空間の中で暮らし始めるにはどうすればいいかについて語っています。
現成公案	1回目（80分04秒） 2回目（74分21秒） 3回目（67分55秒）	大阪	2006年11月	2000円	彦根ASMIでの講話です。道元『正法眼蔵』から「現成公案」巻を読みます。ポストモダン思想とスピリチュアリティとの関係ということを意識しながら、斬新な切り口でお話をします。

スピリチュアル・セラピー@熊野	全体（62分23秒） 添付資料 kumano.pdf	熊野	2006年5月	600円	新宮市で行われたスピリチュアルワークの際の講話です。仏教唯識思想とアドラー心理学を結合して、どうすれば「ハートが開く」かについて話をしています。難しい話をしていますが、スライドを見ながら聞いていただくと理解できると思います。
スピリチュアルワーク@湘南	1日目（56分45秒） 2日目（49分18秒） 3日目（40分28秒）	湘南	2006年3月	1500円	葉山でおこなわれたスピリチュアルワークの中での講話です。原始仏教経典『ダンマパダ（法句経）』をもとにして、時間や空間の構造を考え、そこから、苦とその解脱についての具体的な方法を考えます。
般若心経	前半（53分54秒） 後半（48分33秒）	大和高原	2005年12月	1000円	2005年12月のASMIでの講話です。あらかじめ用意したわけではないのですが、成り行きで般若心経の講話をしました。瞑想によってエゴを落とすという話と、ハートを開いて全体を受け入れるという話の二本立てで般若心経を解釈しています。前半は禅的、後半は浄土教的です。あるいは学問的には正確ではないかもしれませんが、このときのASMIの流れに即した方向で話を進めています。
修証義	第一章 総序（55分12秒） 第四章 発願利生（52分29秒） 第五章 行持報恩（54分40秒）	近江八幡	2003年12月	1600円	滋賀県近江八幡での合宿ASMIで、日本曹洞宗の経典である『修証義』をとりあげて講話しました。道元のことを組み合わせで作られた経典です。曹洞宗の伝統的な解釈にはそれほどとらわれないで、瞑想者としての個性的な見解から解釈しています。ちなみにこの講話は、当時末期ガンの病床にあったある方に聞いていただくために行われました。その方は、翌年の4月に亡くなるまで、この講話を収めたCD-Rをずっと聞いておられました。
マイスター・エックハルト 1・2	60分35秒+66分37秒	大阪	1996年	1300円	4日連続の年末瞑想会における講話の記録です。かつてアドラーギルドがCDで販売したのですが、このたび2回に分けてライブラリに収録することにいたしました。岩波文庫版『マイスター・エックハルト』を読み進めながら、瞑想についていねいにお話しています。 マイスター・エックハルトは13世紀半ばの神学者で、ラテン語を読めない一般大衆に向けてドイツ語で多くの説教を行いました。「エックハルト1」では、最も有名なエックハルトの説教（マタイ21-12）を野田の解釈でわかりやすく読み解いていきます。「エックハルト2」ではヨハネの手紙14-9を読んで三種類の世界の捉え方（一元論・要素論・全体論）を説明します。そしてエックハルトがキリスト教会の内部にしながら全体論的な宇宙観を述べていた、その精神性を高く評価します。
マイスター・エックハルト 3・4	64分36秒+58分31秒	大阪	1996年	1200円	「エックハルト3」ではルカ1-57を手がかりに、瞑想のあり方についてさらに深く考察していきます。私たちはひとつの全体としての世界の中に有機体の一部として存在しているのですが（絶対的全体論）、これを本当に理解するためにはある種のジャンプが必要です。野田はリルケの詩「秋」をひいて、私たちを受け止め支える「手」が必ずあるのだと述べ、これを信仰と呼びます。「エックハルト4」はこれまでのお話の集大成で、「わたし（神）があなた方を世界のうちから選んだのである（ヨハネ15-16）」についてエックハルトの解釈を味わいます。さらに、瞑想の体験を積み重ねていくほど生じてくる課題について野田なりの答えを語る最終部分は、とても迫力があります。
正法眼蔵・山水経 3	5回目前半（35分42秒） 5回目後半（24分30秒） 6回目前半（35分38秒） 6回目後半（31分20秒）	大阪	1995年10月	1300円	道元の『正法眼蔵』の中から「山水経」の巻をとりあげて、瞑想会で話をしました。
正法眼蔵・山水経 2	3回目前半（35分30秒） 3回目後半（28分49秒） 4回目前半（35分44秒） 4回目後半（27分07秒）	大阪	1995年10月	1300円	道元の『正法眼蔵』の中から「山水経」の巻をとりあげて、瞑想会で話をしました。
正法眼蔵・山水経 1	1回目前半（35分30秒） 1回目後半（30分59秒） 2回目前半（35分29秒） 2回目後半（32分08秒）	大阪	1995年10月	1300円	道元の『正法眼蔵』の中から「山水経」の巻をとりあげて、瞑想会で話をしました。全体6回を3回に分けてお届けします。第1回は、自然と人間の関係の話などを中心に。

スッタニパータ後半	第3回目前半（36分39秒） 第3回目後半（25分34秒） 第4回目前半（36分39秒） 第4回目後半（30分04秒）	大阪	1994年12月	1300円	原始仏教の經典スッタニパータ（經集）を題材にして、瞑想について語ります。パーリ語の原文を検討して、本来意図されていたものを推測して翻訳し、それにもとづいて話しています。
スッタニパータ前半	第1回目前半（36分43秒） 第1回目後半（26分19秒） 第2回目前半（36分02秒） 第2回目後半（26分18秒）	大阪	1994年12月	1300円	原始仏教の經典スッタニパータ（經集）を題材にして、瞑想について語ります。パーリ語の原文を検討して、本来意図されていたものを推測して翻訳し、それにもとづいて話しています。全2回。
正法眼蔵 溪声山色7・8	61分59秒+55分55秒	大阪	1994年	1300円	「溪声山色7」では野田自身の四国遍路の体験を交えながら、「溪声山色」と出会うとはいったいどういうことなのかを、また仏教徒にとって仏に「懺悔」するとはどういう意味をもつのかをお話しています。「溪声山色8」では、今まで触れなかった最初の段落に戻り、その短い文章を味わうことで「溪声山色」の全講話を結びます。「縁起」「菩提心」「悟り」など、仏教における最も大切な概念について、野田の理解を丁寧に語ります。
正法眼蔵 溪声山色5・6	69分37秒+60分53秒	大阪	1994年	1300円	道元のいう「菩提心」について、仏道とアドラー心理学の思想とをからめながらゆっくり解説しています。「溪声山色5」では自分の環境を選ぶのは自分自身であること、そうやって選んだ行動は自分だけの問題ではなく世界全体と関わりがあること、またいったん自分の愚かさをすべて認めて正法を受け入れるところから学びが始まることなどをお話しています。「溪声山色6」では人間のどうしようもない「無明」と、徹底的に「無明」に向き合おうとする人間の誠実さについて語っています。野田の太平洋戦争史観や日本仏教に対する考え方はその後変化しましたが、人間というものの捉え方は見事に一貫しているように思います。
正法眼蔵 溪声山色3・4	66分+68分6秒	大阪	1994年	1300円	「溪声山色3」は、靈雲志勤（れいうんしきん）禅師のお話と長沙景岑（ちょうしゃけいしん）禅師の問答を読み解き、世界との縁の中であらゆることを丁寧に生きようとした道元の思想を考えます。「溪声山色4」からは菩提心の話に移ります。生活実践と結びつかないところでの宙に浮いた知識を道元は嫌いました。また当時の仏教界へのアンチテーゼとして存在した禅宗と、欲望全肯定の世界へのアンチテーゼとしてのアドラー心理学の立場とを結びつけてお話しします。1994年の講義ですが、現代の私たちにも多くの示唆を与えてくれます。
正法眼蔵 溪声山色1・2	69分27秒+66分13秒	大阪	1994年	1300円	道元禅師の『正法眼蔵』『溪声山色』の巻をゆっくりと読み説いた講義録です。『正法眼蔵』を、絶対的全体論の立場で書かれた最良の本のひとつとしてご紹介しています。とても迫力のあるお話なので、4回に分けてお送りしていこうと思います。1本目の「溪声山色1」は、有名な「溪声すなわち是れ広長舌」で始まりますが、これを道元の生き方とからめてお話しします。「溪声山色2」は、唐の香巖智閑（きょうげんちかん）禅師のお話ですが、野田独自の解釈を加えることで、きわめて美しく印象的な物語となっています。